

社会・文化・教育



キーワード：子どもからの聴き取り・児童虐待初期対応・子どもの意見表明権

子どもから体験を聴き取るための面接法に関する知見

現代社会学部 現代社会学科 教授

田中 晶子 TANAKA Akiko

研究の内容

「今日学校で何があった？」 「そのケガはどうしたの？」 「なんだか元気がないけれど何かあったかな？」 …私たちは日常的に子どもから体験を聴いていますが、子どもから正確に話を聴き、何があったのかを詳細に把握することは予想以上に難しいことです。

司法面接は、心理学の知見を基礎とし①暗示や誘導を避け、子どもから正確に（被害）体験を聴き取ること、②聴き取りによる子どもへの心理的負担を軽減することを目的とした面接法で、児童虐待の被害確認等の聴取において用いられている手法です。

これまで、児童相談所、警察・検察、家庭裁判所など福祉・司法機関の実務家を対象とする司法面接の研修プログラムを提供するプロジェクトに携わってまいりました。今後はそれらの知見を援用し、教育・保育機関や保護者、子どもと関わるすべての皆様へ広く知見をお届けしたいと思っております。

子どもの語りは様々な事柄から影響を受けやすいため、適切な方法で聴き取る必要があります



田中(2020)司法面接 司法場面における子どもへの面接と多職種の協働 門本(編)司法・犯罪心理学;社会と個人の安全と共生をめざす

産学連携・社会連携へのアピールポイント

虐待が疑われる場合だけでなく、いじめの被害/加害の調査、事故等における状況確認、ルール違反が疑われる場合の聴き取りなど子どもから話を聞くことが重要となる場面は多く、そのような場面で幅広く役立つスキルです。子どもを含むどのような立場の人も、自分の体験や意見を自分の言葉で伝える（適切に話を聞いてもらえる）ことは、権利擁護の観点からも重要となるでしょう。

研究者総覧（田中 晶子）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000673_ja.html

関連URL : 司法面接支援室 <https://forensic-interviews.jp/>

司法面接研究者の会 <https://japan-forensic-interview.jimdosite.com/>

